

「中国の公的医療保険の守備範囲と民間医療保険が担うセーフティネット」

中国の公的医療保険制度の改革は、習近平政権下において、新たな局面を迎えている。先の胡錦濤政権は、高度経済成長にともなって、それまで成し得なかったセーフティネットの拡大、新たな制度の創設を果たし、「社会保障が最も整えられた政権」としての評価を得ている。その一方で、政府が担う社会保障関係のコストや財政支出は大幅に増加した。

経済成長が鈍化し、少子高齢化が急速に進展する中で、その他の社会保険制度とバランスをとりながら、医療保険制度をどう維持していくのか。

本報告では、習政権が胡錦濤政権による医療保険制度を維持しつつ、その守備範囲をどのように拡充するかについて、これまで「補完」として位置づけられてきた民間保険と公的医療保険の積極的な「協働」への移行に着目する。

まず、公的医療保険の給付の範囲や仕組みを概観し、中国の医療保険制度の通院、入院における自己負担の高さを確認する。これまで中国の公的医療保険分野における特質として、中央政府レベルの政策の変遷、その成果の論評が中心となっており、制度における具体的な給付内容に着眼して分析された経緯は少ない。

その上で、給付の拡充を目指すべく、習政権以降、本格的に導入が始まった大病医療保険、民間医療保険の税優遇など、政府財源のみに頼らない、官と民の協働による取組みについて考察する。

最後に、公的医療保険の守備範囲が拡大しつつある中で、その担い手として期待される保険会社や民間医療保険が担うべき役割を明らかにする。